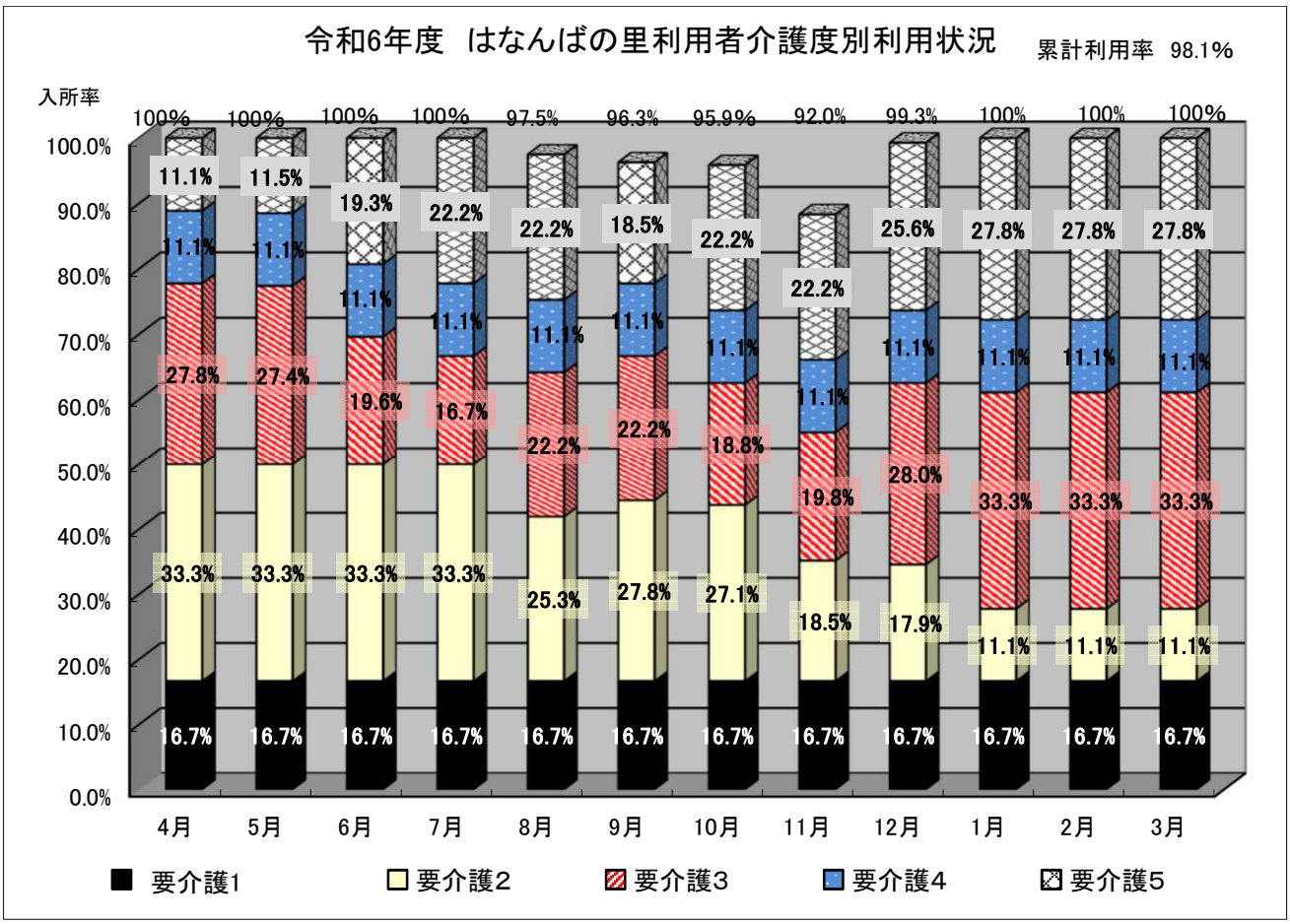
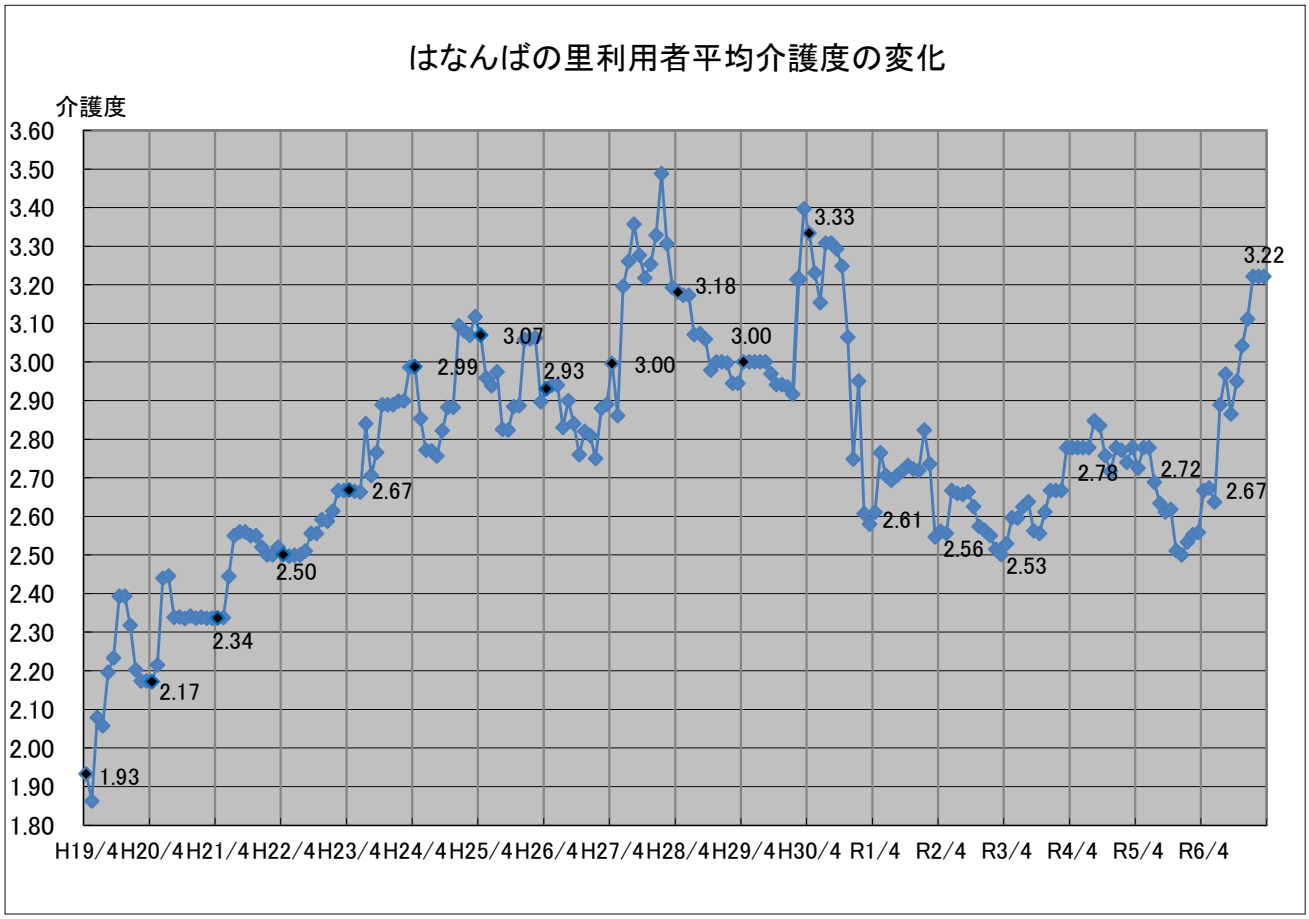
令和６年度　事業報告書

グループホームはなんばの里


令和6年度　はなんばの里利用者介護度別利用状況
累計利用率　98.1%
入所率
100.0%
90.0%
80.0%
70.0%
60.0%
50.0%
40.0%
30.0%
20.0%
10.0%
0.0%
100%
100%
100%
100%
97.5%
96.3%
95.9%
92.0%
99.3%
100%
100%
100%
11.1%
11.5%
19.3%
22.2%
22.2%
18.5%
22.2%
22.2%
25.6%
27.8%
27.8%
27.8%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
11.1%
27.8%
27.4%
19.6%
16.7%
22.2%
22.2%
18.8%
19.8%
28.0%
33.3%
33.3%
33.3%
33.3%
33.3%
33.3%
25.3%
27.8%
27.1%
18.5%
17.9%
11.1%
11.1%
11.1%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
16.7%
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
要介護1
要介護2
要介護3
要介護4
要介護5


はなんばの里利用者平均介護度の変化
介護度
3.60
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.60
2.50
2.40
2.30
2.20
2.10
2.00
1.90
1.80
1.93
2.17
2.34
2.50
2.67
2.99
3.07
2.93
3.00
3.18
3.00
3.33
2.61
2.56
2.53
2.78
2.72
2.67
3.22
H19/4
H20/4
H21/4
H22/4
H23/4
H24/4
H25/4
H26/4
H27/4
H28/4
H29/4
H30/4
R1/4
R2/4
R3/4
R4/4
R5/4
R6/4

●入退所の状況

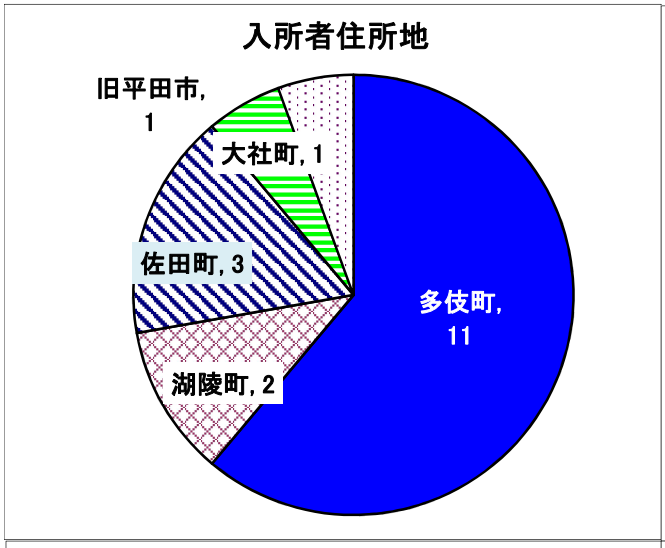
・入所状況　　入所者数　2名

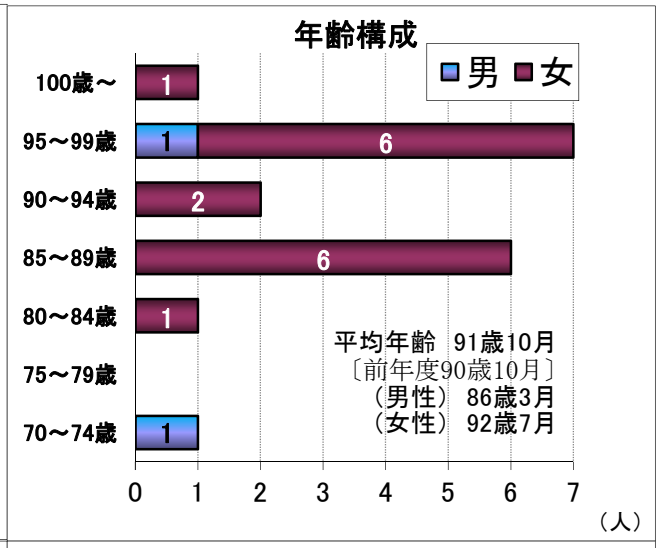
入所時介護度	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
	0	0	0	2	0	0
入所前の居所	自宅	病院	老人保健施設	ケアハウス		
	0	0	1	1		
入所前住所地	多伎町	湖陵町	佐田町	大社町	斐川町	旧出雲市
	2	0	0	0	0	0
性　別	男	女				
	0	2				

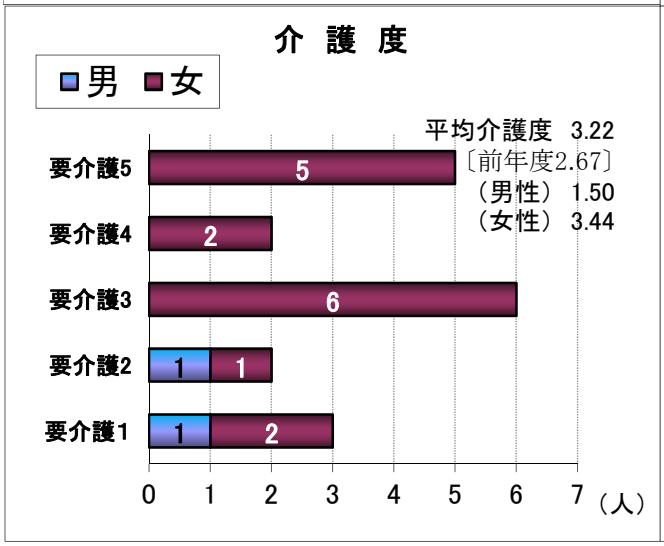
・退所状況　　退所者数　2名

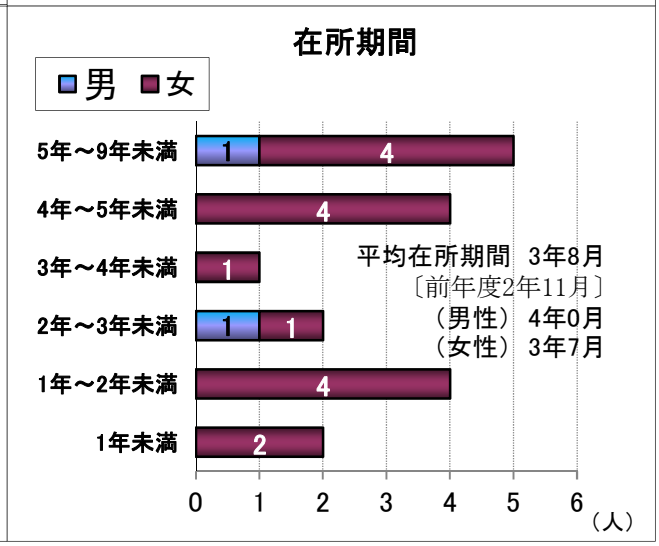
退所時介護度	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
	0	0	1	1	0	0
退所理由	死亡	長期入院	在宅復帰	他施設入所		
	2	0	0	0		
入所前住所地	多伎町	湖陵町	佐田町	大社町	斐川町	旧出雲市
	2	0	0	0	0	0
性　別	男	女				
	0	2				

●入所者状況（令和7年3月31日現在）









令和6年度事業報告

（重点目標、自己評価・外部評価、地域・家族との連携、ボランティア、身体拘束適正化、研修）

◎事業計画重点目標の達成状況について

重点目標	達成状況
施設内外での研修に積極的に参加し、専門的な知識と技術を身につけ、一人ひとりのスキルを向上させる。スキルを向上させることで、職員のモチベーションアップを図る。	施設外の研修案内をファイルに綴じ職員に提示したが、勤務上、人員確保することが難しく、施設外研修への参加者は限られた職員となった。施設内研修では、毎月詰所会議時に正規職員が研修担当となり必要な研修を行ってきた。今年度10月末より、法人職員が仕事の合間などに簡単に視聴できる研修動画を配信していただき、数名の職員が視聴した。個々で視聴しても情報を共有することがなく、課題が残った。
利用者の言動や表情、状態などの観察能力を高め、日々変化する利用者に対するアセスメント力を身につける。記録を詳細に書き記し、その情報を共有・理解し、チームでの連携、チーム力を高めていく。	利用者との関りの中で、何気なく関わることも多く、情報として記録に残せていないことも多かった。ただ話やケアをするのではなく、利用者の言動や表情から発信されている情報を意識しながら確認していくという作業は、全職員ができていたわけではなかった。そのため、記録にも十分に書き記すことができていないこともあった。次年度も同様の目標を継続し、チームでの連携、チーム力を高めていきたい。

◎自己評価・外部評価について

自 己 評 価	令和７年１月 10 日（やまびこ棟）・1 月 23 日（日々輝棟）実施
外 部 評 価	外部評価頻度を2年に1回とすることができる要件（外部評価実施や目標達成の状況運営推進会議の開催状況等）を満たしているため、外部評価実施回数特例適用により令和6年度は外部評価実施が免除

◎実習・研修・施設見学等の受け入れ

依頼先又は名称	期間	人数	内容
家族・高齢者クラブ	7 月 24 日	8 名	認知症に関する勉強会及び施設の日常の様子紹介
多伎中学校職場体験実習	9 月 9 日～11 日	2 名	福祉体験
島根県立大学看護学科	12 月（各 3～4 日間）	3 名（延べ 11 名）	臨地実習（老年看護学実習）
入所申し込み家族	随時	―	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行ったうえで施設見学

◎家族との連携

外出・外泊の状況		外出（通院９回、通院以外２回）　　外泊０名
行事参加	はなんばの里夏祭り	参加者　利用者全員 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、家族等の参加は中止
	新年会	参加者　利用者全員（本来は忘年会を予定していたが、インフルエンザの流行で新年会に振り替えた） 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、家族の参加は中止
家族懇談会		新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
近況報告		家庭通信の発行…年４回（4 月、7 月、10 月、 1 月）実施
		はなんばの里たよりの発行…年４回（4 月、7 月、10 月、 1 月）実施

◎ボランティア等

依頼内容（計画）	依頼予定の団体名等	実施状況
折り紙（月1回）	折っこクラブ[3～4 名]	新型コロナ感染拡大防止のため、中止
習字（月1回）	習字指導[1 名]	
草刈り	田儀地区中学生・家族等	
窓拭き・窓洗い	はなんば利用者家族・やまもも利用者家族、高齢者クラブ	7 月 24 日実施。家族７名・高齢者クラブ８名

◎苦情対応

苦情件数	なし

◎情報公表等

・「介護サービス情報公表システム(厚生労働省 HP・県 HP)」による介護サービス情報の公表
・多伎の郷機関誌の発行…2 回
・多伎の郷ホームページによる情報公表等

◎身体拘束適正化の取り組み

取り組み内容	取り組み状況
身体拘束適正化委員会の開催 【3 月に 1 回以上開催】	4 回開催(5 月 28 日、7 月 24 日、11 月 27 日、3 月 17 日) ※いずれも運営推進会議にて実施
指針の作成	平成 30 年度作成済(変更なし)
研修の実施 【定期的な教育(年 2 回以上)】	2 回実施(9 月 11 日、3 月 12 日)
身体拘束の状況	緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。

◎研修実施状況

1. 法人・事業所内研修

実施月	研修会名	講師	参加職種	参加人数	日数	研修内容
4月	ケアプランに関する研修会	施設長	全職種	14名	1日	ケアプラン作成とﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・ｱｾｽﾒﾝﾄについて
5月	救命救急に関する研修会	介護職員	全職種	10名	1日	窒息時、転倒時の対応と心肺蘇生法及びAEDの取り扱いについて
6月	感染症に関する研修会及び訓練 感染症におけるBCPについて	看護職員	全職種	12名	1日	ノロウイルスに関しての座学及び嘔吐物の処理方法について 新興・再興感染症における区分けについて・BCP計画に基づく初動対応について
7月	看取りに関する研修会	介護職員	全職種	10名	1日	看取りケアについて・家族の心情について
8月	災害発生時における研修会及び訓練	潮風苑 施設長	全職種	10名	1日	キュート連絡網の起動及び返信確認について 防災計画と事業継続計画について
9月	身体拘束・高齢者虐待防止に関する研修会	介護職員	全職員	12名	1日	指針及びマニュアルの確認・アンガーマネジメントについて
10月	事故防止に関する研修会	介護職員	全職種	12名	1日	リスクマネジメントの考え方と身体拘束について
11月	感染症に関する研修会	介護職員	全職種	14名	1日	インフルエンザについて
12月	接遇に関する研修会	介護職員	全職種	12名	1日	これからの病院・施設に求められる接遇対応について
1月	認知症に関する研修会	介護職員	全職種	10名	1日	認知症の分類と中核症状・周辺症状について
2月	事故防止に関する研修会	介護職員	全職種	11名	1日	危険予知トレーニングについて
3月	身体拘束・高齢者虐待防止に関する研修会	介護職員	全職種	13名	1日	虐待防止対策と身体拘束による弊害について

2. 施設外研修、集団指導等

実施月	研修会・会議名	開催者／場所	参加者	日数
5～6月	介護支援専門員更新研修専門課程Ⅰ	県／出雲・ｵﾝﾗｲﾝ研修(座学及びe-ﾗｰﾆﾝｸﾞ)	計画作成担当者1名	5日
10～11月	介護支援専門員更新研修専門課程Ⅱ	県／出雲・ｵﾝﾗｲﾝ研修(座学及びe-ﾗｰﾆﾝｸﾞ)	計画作成担当者1名	3日
6月	施設ケアマネジメント研修会	県介護支援専門員協会／大田	計画作成担当者2名	1日
10月	イクボス活用セミナー	市男女共同参加まちづくりﾈｯﾄﾜｰｸ／出雲	施設長	1日
12月	介護ロボット　地域ﾌｫｰﾗﾑ島根	介護労働安定センター島根支部／松江	施設長	1日
3月	出雲市介護保険ｻｰﾋﾞｽ事業者集団指導	出雲市高齢者福祉課／ｵﾝﾗｲﾝ研修	施設長	1日

令和6年度　事業報告（行事・活動実施状況）

行事・活動名		実施日	実施場所	参加利用者	家族・ボランティア等
お花見会		4月　2日　（火）	はなんば駐車場	18名	
おやつ作り		5月　10日　（金）	はなんばホール	4名	
お好み焼きパーティー		5月　21日　（火）	はなんばホール	9名	
市民一斉クリーンデー		6月　2日　（日）	はなんば周辺	1名	
かたら団子作り		6月　11日　（火）	はなんばホール	17名	
夏まつり		8月　2日　（金）	はなんばホール	18名	新型コロナウイルス感染防止のため、家族の参加は中止
盆供養		8月　13日　（火）	はなんばホール	9名	
敬老会		9月　10日　（火）	はなんばホール	17名	新型コロナウイルス感染防止のため、各施設に分かれて行った
おはぎ作り		9月　25日　（水）	はなんばホール	17名	
運動会		10月　9日　（水）	はなんばホール	18名	
田植え囃子見学		10月　19日　（土）	はなんばホール	17名	
初詣		1月　3日　（金）	多伎神社	12名	
出初式見学		1月　13日　（月）	はなんば玄関	15名	
新年会		1月　22日　（水）	はなんばホール	18名	ボランティア1名
節分会		2月　4日　（火）	はなんばホール	18名	
ひな祭り会		3月　4日　（火）	はなんばホール	16名	
牡丹餅作り		3月　19日　（水）	はなんばホール	18名	
個別活動	歌謡ショー	5月　15日　（水）	はなんばホール	1名	
	墓参り	5月　15日　（水）	町外	1名	
	田植え見学	5月　18日　（土）	自宅周辺	1名	ご家族・ご親戚3名
	地元へのドライブ	5月　20日　（月）	町外	1名	ご家族3名
	買い物支援	5月　21日　（火）	ラピタ多伎店	1名	
	奉仕活動	6月　2日　（日）	はなんば周辺	1名	
	買い物支援	6月　7日　（金）	キララベーカリー	1名	
	誕生会	6月　26日　（水）	キララコテージ	1名	ご家族・ご親戚6名
	帰宅支援	9月　25日　（水）	自宅	1名	ご家族2名
	動物とのふれあい	1月　5日　（日）	居室	1名	
	誕生会	1月　22日　（水）	居室	1名	ご家族1名
	誕生会・お菓子作り	2月　19日　（水）	はなんばホール	2名	
誕生会		その月の行事と一緒に行った	はなんばホール	対象者全員	
法人合同防災訓練		10月　24日（木）	農村広場	16名	
消防訓練		9月　18日（水）	夜間想定 参加者：利用者14名、職員6名、出雲消防署4名、山陰防災電機1名		
		3月　11日（火）	日中想定 参加者：利用者14名、職員8名、山陰防災電機1名		

令和６年度　事業報告（事故防止対策、医療・健康面）

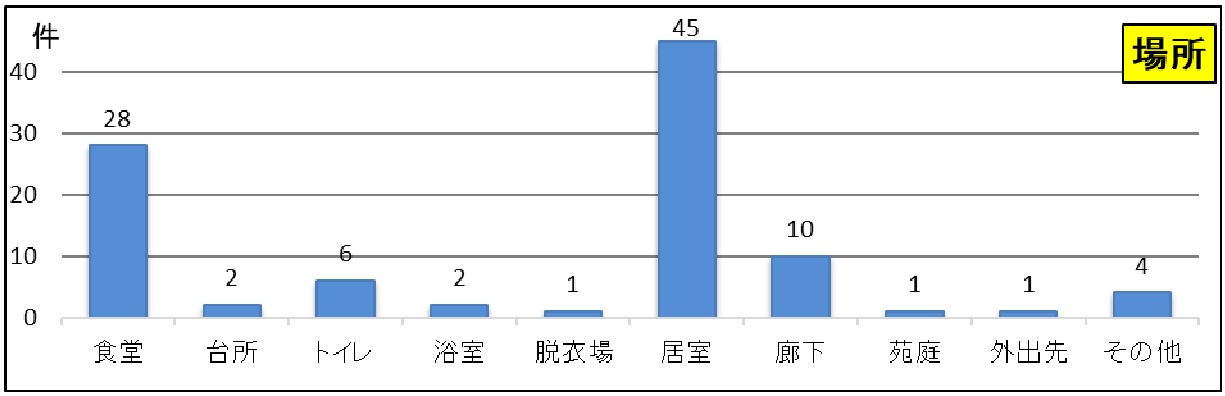
◎ 事故防止対策

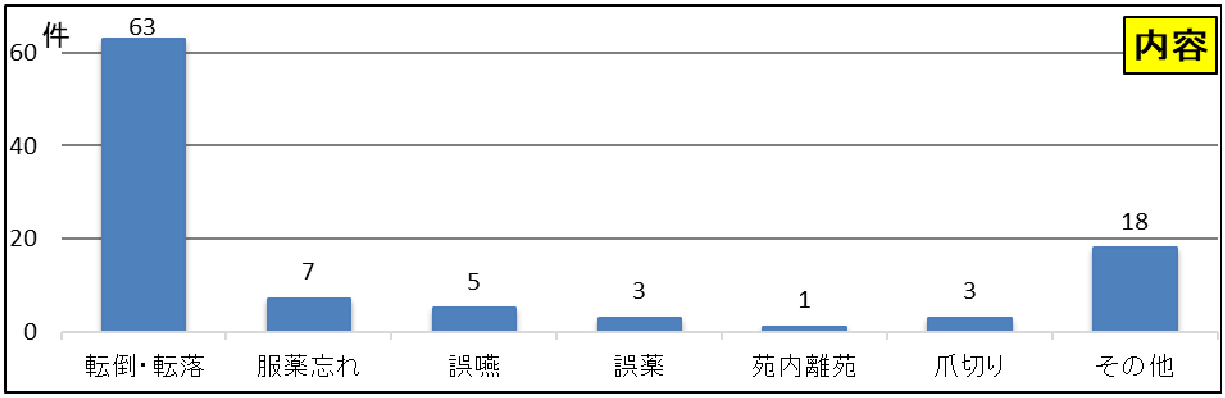
１．保険者へ報告した事故について … ２件

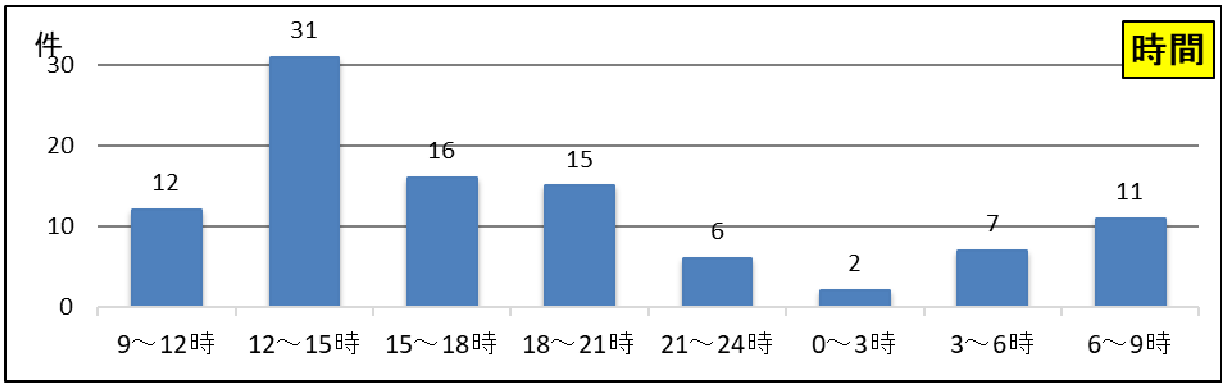
事故の状況	事故後の主な対応及び状況
夜間居室にて転倒→右手第5指骨折	かかりつけ医の紹介で整形外科受診し、シーネ固定。見守りで日常生活。センサーの使用を開始した。
夜間廊下にて転倒→右大転子部骨折	かかりつけ医指示で県中へ搬送。入院となった。

２．ホーム内報告の事故等について

件数	ホーム内用事故報告書… 59 件〔軽微・軽度 55 件・中度 4 件〕 『ひやりハット報告書』…41 件　　計 100 件
主な内訳	







リスクマネジメント	○まとめ R6 年度は全体の7割以上は転倒転落(ヒヤリハットを含む)の事案となっており、うち 2 件は骨折を伴った事故報告でした。原因として多かったのはセンサー不携帯、センサーの不具合といったものが多く、転倒リスクが高いという理由でセンサーを設置しているのに受信機を持ち歩かず気付かなかった事やセンサーのメンテナンスを怠った事による人為的なミスが原因といえます。また利用者も入所期間が長くなってくると身体的な衰えによるADLの低下も見られ、これまでしっかり歩行出来ていた方でも足元がおぼつかなくなり、転倒に繋がる事も考えられます。日々利用者の動向をしっかり観察し、些細な事でも記録して周知していく事、居室の環境を整える事も事故防止への一歩だと感じます。 ヒヤリハットの件数も前年度に比べ多かったように感じます。ヒヤリハットの段階で対策を講じ、事故防止に繋げていけるようにしていきたいと思います。 【次年度事故防止に向けて】 ●利用者の一人一人のアセスメント(日々の関わりの中で気付きを) ●服薬確認の徹底(ダブルチェック) ●センサーや柵等設置した物を有効に活用する(センサーを持ち歩く又は聞こえる所に置く。) ●施設内の環境を整える(物を乱雑に置かない) ●散歩、外出時はスマホを携帯する。

◎ 医療・健康面

健康チェック	バイタルチェック:1日1回、状態に応じ適宜測定,入所者の身体・精神状態に応じて、ケア・医療処置・与薬・投薬調整を行う。体重測定:月1回
健康診断	利用者:老人基本検診(久村診療所かかりつけ入所者1月) 職員:年2回〔8 月、2 月…一般健康診断〕
感染症予防	・標準感染予防策についての研修実施・対策の再確認 ・コロナワクチン予防接種:利用者・職員一部を除いて施行 ・インフルエンザ予防接種:利用者・職員一部を除いて施行 ・ホール及び体調不良者の居室に加湿器設置、 ・うがい、手洗いの励行 ・ノロウイルス等感染対策:ホームの入り口に手指消毒薬を置く。食事準備前手指消毒、食前のテーブル消毒、排泄介助後の手洗い・手指消毒、手袋の使用
新型コロナウイルス感染症への対策	『社会福祉法人多伎の郷　新型コロナウイルス感染症の基本対応』に沿った対応を実施。職員の毎日の検温実施。

グループホームはなんばの里　運営推進会議

開催回数	開催場所	出席者	会議の内容		
6回 （2ヶ月に1回）	・グループホームはなんばの里（5・1・3月） ・デイサービスセンターやまもも（7・9・11月）	●運営推進会議委員 ・家族代表２名 ・地域住民の代表２名 ・出雲市高齢者福祉課職員 ・潮風苑施設長 ・はなんばの里施設長 ●やまもも職員 生活相談員１名（5・1月）	毎回	・利用者状況報告／・活動状況報告 ・行事予定について／・意見交換	
			随時	5月	令和５年度事業報告について ・外部評価結果報告と目標達成計画について ・身体拘束等適正化について
				7月	・身体拘束等適正化について
				11月	・身体拘束等適正化について
				1月	・次年度事業について
				3月	・令和７年度事業計画について ・目標達成計画について ・身体拘束等適正化について

◎　報告書概要（会議の内容）　（令和６年５月～令和７年３月分）

	会議の内容…評価、要望、意見、助言等
5月28日	**●利用者状況・活動状況・今後の行事予定・令和５年度事業報告** **○　地域住民の代表より** 今年度から行事をユニットごとに行っておられますが、職員の手が足りていますか。大変ではないですか。 **⇒　施設より** 今年度より個別性を大切にした活動を計画し実施しているところです。いわゆる３密にならないのであれば、ご家族の皆様にも参加していただいています。コロナも昨年度５類に移行し、徐々に活動の幅を拡げていっています。活動内容によっては手が足りないということもありますが、事前に計画書を提出してもらいどれくらいの人数が要るのか把握し、足りない時には管理者や看護師などユニットに入り、職員間で協力しながら行っています。 **○　出雲市より** 誕生会の方法を変えてみてご利用者に何か変化はありましたか。 **⇒　施設より** ご利用者は幾分も経たないうちに行ったことを忘れてしまう方が殆どです。事の積み重ねで心豊かに過ごせたりされるとは思います。コロナ禍もあったためか、利用者ご本人よりもご家族の方が喜ばれている様子が窺えます。快くお願いを引き受けてくださったり、待ち遠しく感じて頂いたりとそのような姿を拝見するとこちらもやってよかったと実感できます。５月 15 日より面会も 15 分間拡大し 30 分となりました。居室で面会していただくだけでなく、天気の良いときには施設周辺を一緒に散歩していただいています。 **○　地域住民の代表より** ご利用者がすぐ忘れてしまうのは仕方ないことだと思いますが、面会に来られることで利用者のメンタル面に何か影響はありますか。 **⇒　施設より** 性格的なものもありますが、頻回に面会に来られる方については比較的安定して過ごされているように思います。面会が遠のいてしまうと不安な気持ちが強まるようで、職員や他の利用者が密に関わっても孤独感が増していく方もいらっしゃいます。こちらから面会のお願いをしたこともありました。 **○　地域住民の代表より** 面会の回数に制限はありますか。 **⇒　施設より** 特に制限は設けていません。日に２回でも構いません。週に3～4回面会されるご家族もいらっしゃいます。行事や入浴などでタイミングが合わない時もありますので面会時には予約していただくことが必要です。 **○　地域住民の代表より** 事業報告で毎年転倒や転落事故が多く発生していることが分かりました。そういった事故を防ぐためになにか工夫されていることはありますか。 **⇒　施設より** 歩行が安定しない方や自身だけではできないことでも認知症の影響で過信して車いすなどに一人で移乗される方が殆どです。そのような方にはベッドの足元にセンサーを使用し未然に事故防止していますが、前年度はセンサーの受信機を職員が携帯せずに他の業務を行っていたり、送信機や受信機のスイッチがオフになっていたりと人的ミスが多かったように思います。センサーだけに頼らず頻回に巡視等行っていますが、数分で事故に至ってしまうことがあります。今後も事故をゼロにすることは難しいことですが、ヒヤリハットの分析を活かし少しでも事故を未然に防ぐことが出来るよう取り組んでいきたいと思います。

5月28日

○　施設より

はなんばの里は変わらず待機者が非常に少ない状態です。実質上、入所をされそうな方は1名です。外部評価委員の方からも市内でもグループホームの待機者は減少していると伺いましたが、現在もそのような状況は変わりませんか。また、ホームページに待機者数を挙げておられると思いますが、それを見て入所を希望される方はおられますか。

⇒　出雲市より

市内でも待機者数は少なくなっています。シニアコートなどサ高住に入所される方は多く、それを受けてグループホームへの入所待機者が少なくなっているのではないかと思います。

●外部評価結果報告と目標達成計画

外部評価の概要報告及び目標達成計画について

①『外部評価で確認されたこの事業所の優れている点、工夫点』（評価機関記入全文）

日本海に面した静かな場所にあり、施設前の広い駐車場は地域行事に活用され交流も盛んだったが、コロナ禍で中止が続いていた。昨年より段々と復活し、関わりを持てたことに喜びの声が多く聞かれた。一昨年の秋、利用者と職員双方からコロナ感染者が出たが、専門家の指導を受け乗り切っている。コロナ化を機に利用者の入れ替わりもあったようだが、ホールからは歌声や職員と談笑する声がよく聞こえており、イスの体操で体を動かしたり、手作業も盛んに行われている。母体の法人には多くのサービスがあり重度化への対応も可能だが、ここでの看取りを希望する声が多く、以前から看取りを行っており今後も続ける意向を持っている。管理者からは待機者の減少に不安の声が聞かれ、ケアの充実への焦りも感じられたが、時間をかけて段々といろいろな動きが変化してきていることが実感できた。今後も幅広い研修に取り組むことで職員個々がレベルアップし、よりよいケアを目指していただきたい。

②『次のステップとして期待されたい内容』として評価・記載された内容（外部評価全20項目中1項目）

番号	項目	取り組みを期待したい内容
9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	より充実した個別対応ができるよう検討していただきたい。

出雲市へ提出した目標達成計画

優先順位	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	利用者本人の思いや希望など職員個々では把握に努めているが、チーム全体を通しての共通認識は薄い。ご利用者一人ひとりのニーズを理解し支援するためにチーム力を高める必要がある。	利用者の行動や表情、状態などの観察能力を高め、日々変化する利用者に対するアセスメント能力を身につける。記録を詳細に書き記し、その情報を共有・理解し、チームでの連携、チーム力を高める。	①日々の関わりの中で得た情報は生活記録に詳細記録する。②職員は担当する利用者に密に関わり多くの情報を得られるようにする。③アセスメントシートには本人の思いについて項目ごとに一つは記入する。④ユニット会議にてチームでなされてないこと、不十分なことについて再検討し、確実なケアの実施に繋げる。⑤リーダーとその他の職員の横のつながりを大切にし、困ったときにはちょこっとカンファを開き解決できるようにする。	12ヶ月
2	入所してもなお、ご家族と共に利用者本人を支えていかなければならないが、ご家族との情報共有が不十分である。また、ご家族の意向がケアプランに反映していないこともあり、施設側の一方的なケアになっているところもある。	利用者本人とご家族の絆を大切にし、ご家族も利用者が生活していくうえでの心の支えとなり、ご家族と共に本人を支えるケアを目指す。	①計画作成担当者はもちろん、ご家族の具体的な意向が聞けるように、本人の状態や思いをモニタリング月を目安にご家族等に詳細に伝える。②ご家族がより面会に来やすい雰囲気を作るため、面会時、電話、広報誌等で担当職員及びユニット職員は日頃の様子をしっかり伝える。③ご家族に協力していただくことはケアプランにて示し説明する。	12ヶ月

○　地域住民の代表より

個別対応が出来るように取り組まれているのですね。行事や活動の在り方が変わったのも外部評価を受けてのことですか。

⇒　施設より

それもありますが、職員がこうしたいということを形にして実践しています。コロナの影響でできなかったことも少しずつ出来るようになり、以前からやりたかったこと感じていたことなど職員自ら積極的におこなっている最中です。頼もしく感じています。

5月28日	**●身体拘束等適正化委員会** **○　施設より身体拘束廃止委員会（詰所会議）の報告** ・身体拘束廃止委員会（詰所会議）から別紙のとおり身体的拘束等の状況報告を行った。 別紙 **身体的拘束等の状況報告** **■身体拘束の状況** ： 緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。 **■教育・研修等の開催** ： 令和5年9月13日以降行っていない。今年度は9月と3月に行う予定 **■日常的ケアに対する取り組みと見直し** ： 毎月、各ユニットで高齢者虐待、不適切なケアについて話し合いの場を持ち、翌月の月目標として挙げ取り組んでいる。また、詰所会議にて各ユニットで挙がった日常的ケアに対する見直しを基に日々のケアを全職員で振り返り、適切なケアへと繋げていくようにしている。 ◎実際に起こったことではないが、事例をもとに話し合った。 （事例） 自分で歩けるご利用者に転倒させないようにと車椅子で移動した。 ⦿何故そうしたのか？ ・転倒されると困るから ・車いすで移動した方が早いから ⦿私ならこうする！ ・転倒しないように傍について歩く ・シルバーカーや歩行器を使用して安全に歩ける方法で歩く ⦿実際に行いたいこと ・歩行できる力があるのに歩かせないことはその方の身体機能を奪ってしまう。いずれ歩けなくなる時は訪れるかもしれないが、それを職員が速めてしまう。自分で行きたいところに行けなくなり、その方の選択の幅がかなり狭まってしまうことで、間接的に身体拘束や虐待に繋がる事例である。 その日の状態（体調）にもよるが、歩けそうなときは本人の意向を確認しながら、手引き歩行や側方介助、シルバーカーなど安全に歩けるものを使用し、出来るだけ現在の機能を維持し本人の自立支援に繋げていくように配慮する必要がある。 **○　地域住民の代表より** 本当にそのような介助が必要とされますね。車椅子で移動する方が職員さんにとっては早くていいと思われることでも、ご利用者のためにはなりませんね。ご利用者の残された機能をしっかり使ってもらいその方に合った介護をしてもらいたいと思います。 **⇒　施設より** このユニットではインターネットから事例を引き出し、適切なケアを行うための話し合いを持っています。一見、不適切なケアではないのではないかと感じるようなことでもゆくゆくは本人の自由を奪うことになりかねない事例だと思います。ご利用者の中には歩ける機能があっても車椅子での移動を希望される方もおられますが、言葉をしっかり選んで本人が安心してやる気になれるような声掛けを心がけています。 **○　地域住民の代表より** 徘徊される方はおられますか。また、徘徊されて転倒されるなどの危険がある方もおられると思いますが、拘束することもできない中どう対応されていますか。 **⇒　施設より** 徘徊される方は皆さん歩行が不安定な方ばかりです。また、車椅子に乗ったままで徘徊される方もいらっしゃいます。車椅子のブレーキをかけずに降りようとされることもあり、車椅子だから安全というわけではありません。常に職員が付き添って一緒に歩いていますが、時間帯によっては人手が足りないこともあります。一人が落ち着かれないとそれが波及し現場の職員だけでは対応できないこともあります。穏やかに過ごせるような環境を整える努力はしていますが、なかなか難しく感じているところです。 **○　地域住民の代表より** 職員の離職率はどうですか。 **⇒　施設より** 現在のところ、はなんばの里ややまももでは辞める職員は多くはありませんが、介護職員自体が定年を迎えるとその分職員が不足してしまうといったことはどの事業所でもあります。近隣の施設でも介護人材不足を解消するために外国人雇用を始めておられますが、多伎の郷でも来年度を目途に外国人の雇用を考えています。
7月24日	**●利用者状況・活動状況・今後の行事予定** **○　地域住民の代表より** 待機者数が３名とありますが、おおよそどれ位の期間待ってからの入所となりますか。 **⇒　施設より** 基本的に退所されてからの受け入れとなりますので、どのくらいという期間は一概に言えません。申し込み順というわけではな

く、独居や老々介護、措置など緊急性の高い順に受け入れをしています。

○　家族代表より

施設側から利用者に退所してもらうことはありますか。

⇒　施設より

こちらから退所のお願いをすることはありませんが、他の利用者に暴力を与えたり、命を奪うような自傷行為など職員の対応だけではどうすることもできない場合には退所のお願いをすることもあるかもしれません。その前に精神科を受診したり、そちらに転院のサポートをしたりします。基本的には他者への暴力、自傷行為のある方については受け入れが出来かねるということを入所にあたり事前にご家族等に説明しています。

○　家族の代表より

行事予定の中で９月に消防避難訓練とありますが、どんな訓練をしますか。

⇒　施設より

7月24日

コロナが５類になってからは消防署の職員の見守りのもと火災を想定した避難誘導訓練をしています。また、水消火器を使用し初期消火に備えた訓練をしています。訓練後には設備点検も行ってもらっています。消防職員や設備点検業者の方に避難誘導に関するアドバイスや最新の情報をいただき、次回の訓練に備えています。

●身体拘束等適正化について

○　施設より身体拘束廃止委員会（詰所会議）の報告

・身体拘束廃止委員会（詰所会議）から別紙のとおり身体的拘束等の状況報告を行った。

別紙

身体的拘束等の状況報告

■身体拘束の状況：緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。

■教育・研修等の開催：令和5年9月13日以降行っていない。今年度は9月と3月に行う予定

■日常的ケアに対する取り組みと見直し：毎月、各ユニットで高齢者虐待、不適切なケアについて話し合いの場を持ち、翌月の月目標として挙げ取り組んでいる。また、詰所会議にて各ユニットで挙がった日常的ケアに対する見直しを基に日々のケアを全職員で振り返り、適切なケアへと繋げていくようにしている。

インターネットで検索した事例をもとに話し合いの機会を持った。

（事例）利用者が質問すると「何度も言ったでしょ」とそっけない返事をする。

●何故そうしたのだろう？

・他の利用者の対応に追われていたのではないか。
・その職員は認知症の中核症状に理解が乏しいのかもしれない。
・本人に伝わらないことにイライラしたのではないか。
・何回も訊いてくるため煩わしくなったのではないか。
・何度も訊かれ気が立っていたのではないか。
・心身ともに疲れていたのではないか。

●私ならこうする（目標）

・嫌な顔をせずに対応する。
・言われる内容にもよるが、初めて訊いたように同じ答えを返す。
・初めて訊いたように傾聴したり、本人が納得するように返事をする。
・その人なりの考えを理解する。
・イライラしないように心身のリフレッシュを心掛けておく

●目標達成度（振り返り）

・まったく同じような場面ではないが、寄り添い対応できた。
・違う場面で一呼吸おいて対応するように心がけた。

実際に何度も同じことを訴えられるご利用者もいらっしゃいます。その方にとっては、訴えたその時が「初めて」と思っていらっしゃる場合が大概です。そして、不安が大きい時に何度も訴えられます。時間帯によってはゆっくり関わることが難しいこともありますが、できる限りご本人の訴えをよく窺い、安心できる環境を整えていくことが大切だと感じます。

○　地域住民の代表より

他の施設で勤務していますが、利用者が夜遅くに起きて何度も同じことを言われたり、夕方になると「帰る。帰る。」と繰り返される方もおられ大変だなぁと感じて見ています。職員さんがおしぼり巻きなどの手伝いをさせて落ち着かせている様子もありました。

7月24日	⇒　施設より 夕方になると夕暮れ症候群が顕著に表れ、帰宅に対する思いが強くなる方も多くいらっしゃいます。丁度職員数が少ない時間帯となる為、十分な対応ができない場合もあります。音楽を聞きながら一緒に歌ったりなどしますが、個別の対応が難しいです。洗濯物をハンガーに引っ掛けてもらったり外したり、洗濯物を畳んでいただくとご自分の役割として黙々と行っていらっしゃいます。そのほかにもゴミ出しや献立書きなどをご自分の役割として捉え行っておられます。認知症になると何も出来なくなるという事ではなく、認知症であったとしてもまだ残されている能力を私たちが十分に引き出し、ご本人の自信に繋げていけるようにしていきたいと思っています。 ○　施設より 資料に記載した認知症の中核症状について説明。認知症になれば中核症状は必ずと言って良いほど出現します。事例のようにさっき言ったこと、行ったことを忘れてしまい何度も訴えてしまうのも中核症状の一例です。これを放っておいたり不適切だと感じるような対応を続けていると周辺症状（BPSD）と言われる症状が出現します。これは誰にでも起こりうるものではなく、そのご利用者の置かれている環境に大きく左右されます。建物や灯りなども本人を取り巻く環境の一つですが、ご本人に関わる私たちも人的環境として大きな影響を与えます。私たち介護職員は、この周辺症状を出現させない或いは最小限にとどめられるような対応を常に心がけていなければならないと思っています。 （その他） ○　施設より 認知症対応型の入所施設及び通所施設の待機者や利用者が市内の方でも減ってきていると聞いています。認知症に特化した施設は利用される方にとっても重要な施設であり、この先、認知症の方が能力を発揮しながら生活していくうえでは欠かせない施設だと考えています。認知症の方が減っているわけではないと思いますが、全国の中には待機者を振り分けより利用しやすくされている自治体もあるようです。出雲市もそのような制度を設けることはできないものでしょうか。 ⇒　家族の代表より 現在は入所していますが、自宅で一緒に生活している時には大変でした。入所の申し込みをしていてもなかなか入所できない中、認知症のデイサービスに通わせていただき、こじんまりとした中での活動や普段できないことをさせていただいて、日中だけとはいえ、家族も安心して過ごせました。本人が色々なことができるうちにこういった施設の利用や入所をされた方が良いと知人に勧めたりしています。家族としても行政になんとか力添えして頂けたらと思います。 ⇒　出雲市より こういった認知症の施設があることを知らない方もいます。周知という面でまだまだというところもあります。市も含め、まずは周知して色々な方に知ってもらうということが必要かと思います。 ⇒　施設より 行政と事業所が情報を共有しながら上手に連携していき、認知症対応型の施設が生き残れるようにしていく必要があると思います。 ○　地域住民の代表より 「ぼけ」と「認知症」の違いは何ですか。 ⇒　施設より はっきりしたことは勉強不足で分かりませんが、かつては「ぼけ老人」「痴呆老人」などと呼ばれていたと記憶しています。「ぼけ」は記憶の問題だと思います。現在は認知症と呼ばれるようになり、一般の方にも広く知られるようになったと思います。何もわからなくなってしまうというのが認知症ですが、早期には自身も「何かがおかしい」「なぜ昨日までできたのに」というような思いをされています。何もわからなくなるという不安を抱えながら認知症は進行していきます。本日の午前中にご家族や地域の方々に対して認知症の勉強会を開催し、そこでもお話ししましたが、認知症になり色々なことを忘れたとしても必要なサポートを受けながらできることがたくさんあると思っています。「認知症」＝「何もできない人」ではなく、適切なサポートさえあれば、「なんでもやってみたい」「できることがたくさんある」という方々です。私たちがその役割を担い、ご利用者が生活するうえで自信につながるように努めていかなければならないと実感しています。
9月27日	●利用者状況・活動状況・今後の行事予定 ○　出雲市より 行事・活動について久しぶりに窓ふきボランティアや認知症の研修会を行われたようですが、高齢者クラブの方も参加され、地域とのつながり大切にされていることはとても良いことだと思いました。 ○　家族代表より 窓ふきボランティアや認知症の研修会に参加させていただきましたが、認知症に関する勉強会は以前も行っておられたようですね。勉強会といっても難しいものではなく、とても分かりやすい内容でした。また普段は日常の様子を見られないのですが、今年の施設での様子を画像として見ることができてとても良かったです。 ⇒　施設より 研修会を行った職員はキャラバンメイトの会員です。普段から施設内研修でもわかりやすい説明をしてくれます。

9月27日	○　地域住民代表より 地域貢献できることがあれば参加したいとありますが、どういった形で参加されますか。 ⇒　施設より 地域に根差した施設を目指すということは法人の理念でもあります。今回はご家族や高齢者クラブの方を対象に勉強会を行いましたが、地域の方にももっと参加していただき認知症を知ってもらいたいと思っています。しかし、以前行っていた時には、窓ふきボランティアだけで勉強会はしなくてもいいという声も多く頂いており、私たちとしてもどう地域に発信し貢献できるかというところが課題となっています。ボランティアネットたきにも伺い、何かできることはないかお聞きしたのですが、現在のところはないという回答でした。職員数も少ない中、組織として地域の活動に参加するのは難しく感じますが、デイサービスセンターやまももは毎日営業してはいないので、非営業日に設備として使用して頂いたり、現在でも行っていますが駐車場を貸し出したりすることは可能です。サロン会などにお邪魔し研修会などの活動を行うことも可能です。 ○　地域住民代表より 現在、入院されている方がおられると話されましたが、入院すると認知症が進行しますか。 ⇒　施設より 入院の日数にもよるかもしれませんが、進行することがあります。また、せん妄といって一時的に認知症によく似た症状が出る場合もありますが、住み慣れたところに退院されると改善していきます。せん妄はご高齢の方で認知症を発症されていなくても出現することがあります。実際にそういう方もおられました。環境が大きく変わることで、精神的な変化をもたらします。 ○　地域住民代表より 入院された後、状態が重く変わっても受け入れますか。 ⇒　施設より 度重なる介護保険制度の改定に伴い、グループホームに求められることも変化しています。開所当初は要介護度も１～２の方ばかりで、ご自分で何でもできる方が多くを占めていました。しかし、現在は看取りまで行うということが前提となっています。常時、医療行為を必要としない場合であれば、要介護度が重くなったとしても退院後ははなんばの里に戻っていただいています。 また、現在は経過措置期間ですが、今年度から協力医療病院を定めて連携を図っていくことが義務付けられています。年に数回、緊急時の対応など協力医療機関と確認をし、行政への報告も年に１回行うことなどが定められています。それに加えて、入居者が入院し回復すれば速やかに再入居させなければならないと謳われています。 ○　地域住民代表より 現在、ボランティアの受け入れはされていますか。 ⇒　施設より 現在は受け入れをしていません。町内のボランティアグループもご高齢となられ解散され活動されるボランティアも少なくなっています。まずは大勢で来られるボランティアよりも1～2名程度で活動されるボランティアをと考えていますが、実際のところ、入居者も認知症が進行し機能的に出来ない方や理解に繋がらない方も増えています。職員が一対一で付いていないと難しい状況です。コロナ以前は毎月行っていましたが、年単位で考え、職員を増員したりして受け入れする方向で考えていかなければならないのかもしれません。ボランティアではないのですが、市から委託され４か月に１回介護相談員という形で入居者の話を伺いに来られます。普段、職員に言えないことや感じていることなどを聞き取られ、事業所に報告されます。ご利用者の思いを報告していただくことで、ケアのヒントになることもあるので参考になります。また、ゆっくりとお話を聞いてくださるだけでもご利用者の皆さんは喜ばれていると思います。 ○　出雲市より 多伎中学生職場体験の受け入れをされるようですね。外部との交流という意味でもぜひ継続して受け入れをお願いしたいと思います。 ⇒　施設より コロナ以前は受け入れをしていました。今回は久しぶりに受け入れをしますが、将来介護職員を目指している学生もおり頼もしく思います。しっかりと指導にあたりたいと思います。 ○　出雲市より 合同防災訓練とありますが、有事の際は近隣住民の協力等は得られますか。 ⇒　施設より 火災については夜間は２名で業務を行っており避難誘導が優先されますので拡声器で知らせることはできませんが、日中は拡声器で応援を求めれば駆けつけてくださることになっています。地震や津波、洪水など地域の方も同様に避難しなければならないのでその際は協力できないと言われています。ただ、何年も前にやりとりをしているので、自治会長も交代する中、どこまで引き継がれているかは分かりません。 ○　出雲市より 外国人雇用はされていますか。 ⇒　施設より 現在、外国人の雇用はありませんが、今年度、紹介会社と契約を結びました。自転車や徒歩で通える範囲に住まいを準備しなけ

	ればならないのですが、住まいの確保の目途がつかない状況です。登録して実際に雇用に至るまで１年程度かかります。近辺の公営住宅が今は空いていても１年後に確実に確保できる保証はありません。また、公営住宅は世帯で入居することになっており外国人を雇用しても別々に住まわせないといけないとなると、少なくとも雇用する人数分の住まいを確保する必要があります。そういったところを行政の方で検討していただき、より外国人雇用をしやすいものにしていただきたいと思います。 **○　地域住民代表より** インフルエンザやコロナのワクチンは受けられますか。 **⇒　施設より** 職員については、コロナワクチンは満 65 歳以上でないと安価で受けることはできないので、受けない職員が多くいます。インフルエンザワクチンの方は大半の職員が受けることを希望しています。ご利用者については、インフルエンザワクチンは受けるがコロナワクチンは受けないという方も数名いらっしゃいます。両方希望されない方もいらっしゃいます。予防接種をしてもかからないということはないので、とにかく職員が施設に持ち込まないようにしていくしかないと思います。コロナが５類に分類された今でも、季節性ではないコロナウイルス感染症は法人内の事業所内でも度々発症しています。法人の職員には外出時のマスク着用をお願いしていますが、以前のように行動制限を設けていないので、各自が気をつけていないと感染しやすい傾向にはあります。
11月27日	**●利用者状況・活動状況・今後の行事予定** **○　出雲市より** 防災訓練で避難された田儀農村広場までどのくらいの時間を要しますか。 **⇒　施設より** 避難場所の農村広場までは車で１～２分程度です。 **○　家族の代表より** 地震・津波の訓練を行われたようですが、火災訓練は年に何回行っておられますか。 **⇒　施設より** 火災訓練については年に２回行っています。 **○　地域住民の代表より** 個別外出支援とありますが、何人くらいの人が一緒に出掛けますか。 **⇒　施設より** コロナも落ち着き、今年度から地域やご家族とのつながりを大切にしたいと思い、外出支援を計画しました。基本的には一対一での外出を行っています。主に誕生月に支援していますが、今回報告した方は冬生まれの方でした。寒い時期には外出が難しくなるので、ご家族の希望もあり９月に外出支援を行いました。これまでもご自宅の田植えを見学されたり、好きなパンを買いに出かけたり、ご家族と外出し誕生会を行ったりしてきました。ご家族の協力を得て行うことも沢山あります。 **⇒　家族の代表より** 職員さんが同行してくださり心強かったです。自宅への外出ということで、坂を上らないといけなかったり、座敷に上がるにも段差を越さなければいけなかったのですが、日頃介護しておられるので安心して自宅に迎えることができました。こういった機会は家族にとってもありがたいことなので続けてほしいと思います。 **○　地域住民の代表より** 折り紙や習字のボランティアは現在中止しているとありますが、再開される予定はありますか。 **⇒　施設より** コロナも落ち着き徐々に再開していく考えでいましたが、今年度、個別支援活動を行ってみて集団で何か一つのことを行うよりも、個別にその方に合ったことを行う方が良いのではないかと考えるようになりました。認知症が進行し、出来なくなったことに対しての不安や苛立ちの大きさやを考えると個別での活動に重きを置いた方が良いように思います。機能的に出来なくなった方や実際に習字や折り紙を好まれない方の方が多くいらっしゃいます。また、コロナ禍でボランティアの受け入れを行っていない間にボランティア団体の方もご高齢になり活動を辞められたり、ボランティアをされる方も減少しています。高齢者施設だけに限らず、社会全体が集団で何かしようということから個別へと変化しているように思います。施設としては、ご家族への働きかけはもちろんのこと、必要な時に必要な方を呼び入れたり、出向いたりという働きかけを行っていくことが重要なのではないかと考えています。 **○　地域住民の代表より** 個別にということになると、職員数も足りなくなり大変ではないですか。 **⇒　施設より** ボランティアを受け入れ集団で何かをするにも通常の時よりは人手が必要となります。準備から片付けまでを行うとなると、余力もありません。職員をその日に１名増員して個別活動を行う方が時間的には余裕があるような気がします。 **⇒　出雲市より** どこの施設でも職員不足だと思いますが、掃除などの周辺業務をシルバー人材センターが担っている施設もあります。そういった人材を活用してみてはどうかと思うのですが。 **⇒　施設より**

11月27日

現在、介護補助員として掃除業務やシーツ交換、食事作りなど行っている職員が３名います。介護職員だけでは行えない業務をしてもらっています。多伎の郷では、こども園がシルバー人材センターの方に来てもらって周辺業務を行ってもらっています。

●身体拘束等適正化委員会

○　施設より身体拘束廃止委員会（詰所会議）の報告

・身体拘束廃止委員会（詰所会議）から別紙のとおり身体的拘束等の状況報告を行った。

別紙

身体的拘束等の状況報告

■身体拘束の状況：緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。

■教育・研修等の開催：令和6年9月11日(水)　詰所会議にて高齢者虐待防止に関すること及び身体拘束等防止に関するマニュアルや指針の読み合わせと説明、見直す箇所がないかどうかの確認を行った。

■日常的ケアに対する取り組みと見直し：毎月、各ユニットで高齢者虐待、不適切なケアについて話し合いの場を持ち、翌月の月目標として挙げ取り組んでいる。また、詰所会議にて各ユニットで挙がった日常的ケアに対する見直しを基に日々のケアを全職員で振り返り、適切なケアへと繋げていくようにしている。

インターネットで検索した事例をもとに話し合いの機会を持った。

（事例）車椅子を無言で動かす。

●何故そうしたのだろう？

・他のことで忙しく、流れ作業のようにしてしまった。
・声をかけても分からない(聞こえないも含め)と思ったのでは？
・急いでいてすぐに動かしたのかもしれない。
・別のことを考えていて集中できなかったのではないか。

●私ならこうする(目標)

・わからなくても必ず声をかけてから車椅子を動かす。
・必ず呼名してからこれからする行動を説明し行動に移す。
・都度説明してから行動する。
・車いすに限らず、ケア全般において声掛けしてから行動することを徹底する。

●目標達成度(振り返り)

・日頃より声掛けを行いケアが行われている。目標はほぼ達成できている。

人を人として対応できているかを問われる事例だと思います。「どうせわからないから・聞こえないから」と声をかけずに行動に移すことは物を扱うことと一緒だと思います。職員はケアを行う前に比較的よく声をかけていると感じています。車椅子を動かす前にしっかり声をかけたり、これから行う行動についても説明しています。これからも継続してもらいご利用者が安心して日常生活を送れるよう支援していきたいと思います。

○　地域住民の代表より

車椅子を無言で動かすということはどういうことですか。

⇒　施設より

私たち介護職員は車椅子だけに限らず、何か行動に移す時には必ず声をかけ、これから行うことについて説明するように心がけています。認知症だから高齢者だからということではなく、私たちも黙ってされると不安に感じたり、怒りを覚えたりするはずです。特に認知症を抱える方にとっては私たちの行動が不安や怒りなどを増大させる原因にもなりかねません。声をかけ理解を得たうえで行動に移すことが必要になります。

○　家族の代表より

車椅子を無言で動かすことが身体拘束や虐待になるのですか。

⇒　施設より

不適切なケアとは確実に虐待とは言い切れないものの、適切であるとも言い切れない「グレーゾーン」のケアのことを言います。車椅子を無言で動かすことに関しても明らかな虐待には相当しないと思われますが、適切なケアとも言えない事例です。この不適切なケアの段階で気付き芽を摘んでおくことで、虐待に発展することはないと言われています。「ちょっと待って」と言い切るだけのケアなど言葉による拘束に関しても不適切ケアとして事例を挙げ話し合っています。丁寧な説明や真摯な態度でケアしなければ、認知症であれば必ず出現する症状に加え、私たちの不適切なケアによって、周辺症状という不安や焦りなど心理的部分に支障をきたしてしまうような症状が出現してしまいます。それがないような関わり方を心掛けていかなければならないと感じています。

○　地域住民の代表より

利用者同士のいじめみたいなものはありますか。

11月27日	⇒　施設より 　あります。困ることが多いご利用者や同じような行動をするご利用者に対して心ないことを言われる方もいます。どちらが悪いということではなく、どちらのストレスも解消しないといけないと思っています。何故、そういうことを言われるのか、何故そう言う行動をされるのかを考え、双方の気持ちを知ったうえでケアしていかないといけないと思います。職員は人手がない中でもお互いが嫌な思いをしないようにと食事時間や活動の時間をずらしたりして、できるだけ顔を合わす時間が重ならないよう工夫しています。
1月30日	**●利用者状況・活動状況・今後の行事予定** **○　家族の代表より** 　利用者１名は要介護度の変更申請中と言われたが、変更するタイミングはどのような時に行いますか。 **⇒　施設より** 　通常は認定の有効期間をもって調査をし、判定された上で要介護度が変更となる場合が多いですが、例えば入所中に足を骨折して今まで歩行されていた方が車椅子での移動になったり、身の回りのことが人の手を借りないとできなくなったりと本人の状態が大きく変わり、明らかに介護の手間が増えた時に申請を行います。職員間で状態の変化を確認し、ご家族に説明し了承していただいた上で、保険者に対し区分変更申請を行っています。また、入所の受け入れの段階で、既にその要介護度にそぐわない方についても区分変更申請を行ったことがあります。 **○　地域住民の代表より** 　認定の有効期間は人によって違いますか。 **⇒　施設より** 　人によって違います。先ほどの区分変更申請で要介護度が決定した方は、また状態が変わる可能性があるということで、6か月から１年程度と短い期間となっています。その反面、特養入所の方などは状態が大きく変わらない方が多く入所されており、認定の有効期間も3～4年間と長い方が多くなっています。 **○　家族の代表より** 　特養は要介護度３から入所できますか。 **⇒　施設より** 　入所基準は要介護度３からとなっていますが、加算の関係で実際はどこの施設でも要介護度４以上の方が入所されているところが多くなっています。 **○　地域住民の代表より** 　要介護度５の方が５人もいらっしゃるので介護の手がより必要になるのではないですか。介護度の重い方は、例えば特養のような施設に移ることはできないのですか。 **⇒　施設より** 　認知症があっても職員の手助けで調理したり、掃除したりと身体的に自立度の高い方が入所し共同生活を送るというのが本来のグループホームの在り方なのかもしれませんが、入所の対象となるのは要支援２と要介護１～５と幅広くなっています。介護度が高くなるにつれて拘縮が進行したり他動的に動かさないと身体が動かないなど寝たきり度も高くなることが多いですが、要介護度５の方も対象となっているので、本人や家族の希望がなければ介護度が重くなってもそのまま入所を継続できます。入所前や入所中に家族が特養へ申し込みをされ、介護度が高くなり特養に空きが出た段階で特養に移られた方もいらっしゃいます。実際にはなんばに入所されている方の中にも特養が空くのを待っている方もいらっしゃいます。要介護度の変更に伴い、都度特養へ転所する意思があるかどうかご家族に伺いますが、看取りまでと言われる方が殆どです。グループホームでも看取りができ、ここ数年は転所せず施設内で看取ることが多くなっています。 **○　出雲市より** 　要介護度４～５の入所者は元々入所した時から介護度が高いのですか。それとも入所中に高くなったのですか。 **⇒　施設より** 　いろいろなパターンがあります。徐々に高くなっていく方や先ほどの骨折などで状態が変化した方や脳梗塞など発症し、その後遺症で状態が大きく変化し介護度が重くなる方もいらっしゃいます。施設に入所される前に調査に行くのですが、要介護度３と伺っていても実際の状態は明らかにそれ以上だということもありました。 **●次年度事業について** **○　施設より** 　次年度は介護報酬改定等の見直しもないため、田儀の施設は大きく変わることはありません。近年、介護報酬改定に伴い、研修自体も必ずしなくてはならないものが増え、はなんばややまももでも職員会議を利用して施設内研修を行っていますが、研修項目の多さに追い付かない状況となっています。時間や人員の関係で、外部に出掛けたくても思うように出掛けてはいけない現状がある中で、効率よく研修を受けることができるようにしていかなければいけません。そこで、多伎の郷では年間契約をし、昨年の１０月からどの事業所でもインターネットで研修を受けることができるようにしました。各事業所のパソコンを使用したり家で各個人のスマートフォンを使用し、いつでも好きな時間に動画を見て学ぶことができます。研修項目は多岐にわたり、数もかなり多く

1月30日	あります。職員のスキルアップを図ったり、長年の経験者でも介護技術の振り返りや最新の情報が把握できたりしています。 施設内での飲食についても、以前は行事などご家族や地域の方に参加していただいて、飲食を共にしていましたが、現在は感染予防対策として禁止しています。法人全体として考えていかなければなりませんが、また３月に事業計画の中で示していきたいと思います。 **○　地域住民の代表より** 個人のスキルアップが図れることは解りましたが、資格取得には役立ちますか。 **⇒　施設より** 資格取得のための研修動画も多くあります。これまでは参考書など個人が購入して勉強し、資格取得に向けて取り組んでいましたが、これからはこのインターネットでの動画を参考にして勉強することが可能となりました。計画的にこの研修を受ければ個人的なスキルは上がっていくと思うのですが、私たちはチームで仕事をしています。知り得た知識をどのように仲間と共有していき、事業所全体としてスキルアップできるかが課題だと思っています。 **○　家族の代表より** 感染症が発生した時には、食事はどうしていますか。 **⇒　施設より** 基本的には個室で対応しています。ベッド上では座位が保てない方や不穏になられる方については時間差でホールに出掛けて食事を摂っていただいています。
3月17日	**●利用者状況・活動状況・今後の行事予定** **○　出雲市より** 平均年齢が高い割に介護度が安定していると感じましたが、皆さんお元気なのですね。 **⇒　施設より** 平均介護度は高止まりしているということかと思います。平均年齢が高い割に介護度はさらに高くはなっていないのかもしれません。 **○　地域住民の代表より** 消防避難訓練はどこから避難させるのですか。また、歩けない方などどうやって避難させますか。 **⇒　施設より** 実際に火災が発生した場合は、火や煙の周りが早いので居室の掃き出し窓からすぐに外へ避難し、玄関前を第一避難場所としています。最終の第二避難場所は門扉のところです。 しかし、掃き出し窓から外へ出るには段差があり、自分で歩ける方でも自力で避難することは難しいと思います。リスク回避のため、訓練時は廊下を通って玄関へ避難しています。いざとなれば、布団や毛布にご利用者を包んで外に出し、駆けつけた職員や地域住民の方の助力も得て危なくない所まで避難誘導・介添えをしてもらうことになります。第二避難場所の門扉のところも消防車が入って来るところなので衝突したり侵入の妨げになったりしないよう注意を要します。また、風向きや火の状態などで避難場所は変わってくると思います。その時の様子を見ながら指示を出したいと思います。 ここ数年で独歩のご利用者も減り、ご自分で避難される方も限られています。訓練では車椅子を何度も往復させ移動しました。 **○　出雲市より** 年代別で年齢を見ますと、95～99 歳が一番多く、この頃の世代の高齢者は戦後で食糧難に陥った方たちだと思います。骨が脆く骨折などされやすくないですか。事故に関するヒヤリハット報告書などの提出はありますか。 **⇒　施設より** 高齢者でもあり転倒することで骨折に繋がりやすくはあります。転倒を予防するために、ヒヤリハット報告書をはじめ、それぞれの事故のレベルによる報告書をその都度提出してもらっています。すぐに解決が必要な事故に関しては、その場で話し合って対策を講じています。 **○　地域住民の代表より** 要介護度が高くなっていますが、認知症の症状が重い方が多くなりましたか。 **⇒　施設より** かつては現在と同じ平均要介護度くらいの時もありました。以前は、身体はある程度ご自分で動かせるのですが、認知症の症状が重い方が多かったようです。現在は、認知症の症状が重い方もいらっしゃいますが、身体介護を必要とする方の方が多い状態です。 **○　出雲市より** どこの施設も職員が足りないと思うのですが、こちらはどうですか。職員が不足している時にシルバー人材センターの派遣委託を利用し、補助的な仕事をしてもらうこともできます。 **⇒　施設より** 介護補助員という形態で掃除や食事作り、見守りなど行う職員がいます。現在は職員に欠員がありますが、4 月からの異動で充足される予定です。

●次年度事業について

○　施設より

次年度の事業計画（重点目標および研修）について説明。

重点目標については、オンライン研修を導入したことにより、容易に研修を受けることが可能となりました。多伎の郷の職員であれば誰でも学びたい研修を選択し視聴できます。認知症介護についても多くの動画が用意されていますので、職員が個々に視聴し、コミュニケーション能力を向上させることやケアにおいても個々に合ったものを選択し、実践に繋げられるように取り組みたいと思います。また、二番目の目標については、不十分と感じる職員も多かったため、次年度も引き続き継続して取り組むことにしました。

研修については、施設内外の他にオンライン研修も導入されましたので、そちらの方も活用しながら学びの機会を増やしていこうと考えています。

⇒　出雲市より

より身近に研修が受けられるようになったのですね。しなくてはいけない研修も沢山ありますので、そういった形のものを活用して取り組まれることは良いことだと思います。

●目標達成計画について

○　施設より

はなんばの里では、毎年自己評価を行っています。そのほかに外部に委託して行う外部評価も２年に１回受けています。この運営推進会議の場でも外部評価は可能ですが、次年度も委託して外部評価を行う予定としています。今年度は、実施回数特例適用を受けた年でしたので受けていませんが、昨年度の評価を受け「できていない点や課題」を洗い出し、目標を設定し、１年間にわたり取り組んできたものを資料として添付しています。

○　地域住民の代表より

3月17日

ケアプランにご家族を位置づけできるようにしたとありますが、例えばどんなことをされたのでしょうか。

⇒　施設より

施設入所されると家族、社会との関係を断ち切られたかのように感じられる利用者も少なくありません。私たちもとかく施設内だけでケアを完結しようとする傾向にあります。入所してもなお、ご家族と共に本人を支えていく必要があると思っています。認知症でわからなくなったとしても、ご家族の声を聞いたり顔を見たりされることで、その時だけでも安心できたり喜びの気持ちが湧いたりされます。

脳梗塞で軽度の麻痺が残った方については、面会時、ご家族に協力していただきながら昔のおもちゃなどを使って手足を自発的に動かすような運動をしてくださっています。水分が摂りにくい方については、ご家族から自宅でよく飲んでおられたものをお聞きし、持参していただき少しでも水分摂取ができるように協力していただいています。また、なかなか面会できない方には、電話で話をしていただいたりしています。普段からされている方々ですが、ケアプランに位置づけることによって、ご家族もケアに参加していると感じられることもあるかと思っています。

○　地域住民の代表より

電話をすることでかえって不安になったりされませんか。実際に面会や電話をしたくても、その後、本人の気持ちがどうなるかわからず、職員さんに迷惑がかかってもいけないしと思った経験があります。

⇒　施設より

実際に電話を終えた後、誰と電話していたかわからず不穏になられることもありました。個人的な考えかもしれませんが、電話をしている最中に娘さんや息子さんだと理解されて楽しんで会話ができればそれでよいと思っています。その後は電話した事実も忘れてしまわれますが、その時だけでもご家族を感じながら心が穏やかになる時間が確保できることが大切なのではないかと思います。職員によっては対応が大変と感じることもあると思いますが、本人はもちろん、ご家族も安心されると思いますので、出来る限りご家族との時間を確保していきたいと思います。

○　地域住民の代表より

家族の協力は必要ですね。その人にとっては心の拠り所であり、家族にとっても同じだと思います。

●身体拘束等適正化委員会

○　施設より身体拘束廃止委員会（詰所会議）の報告

・身体拘束廃止委員会（詰所会議）から別紙のとおり身体的拘束等の状況報告を行った。

別紙

身体的拘束等の状況報告

■身体拘束の状況 ： 緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。

■教育・研修等の開催 ： 令和７年３月 12 日（水） 詰所会議にて「高齢者虐待と身体拘束」について研修会を行った。

■日常的ケアに対する取り組みと見直し ： 毎月、各ユニットで高齢者虐待、不適切なケアについて話し合いの場を持ち、翌月の月目標として挙げ取り組んでいる。また、詰所会議にて各ユニットで挙がった日常的ケアに対する見直しを基に日々のケアを全職員で振り返り、適切なケアへと繋げていくようにしている。

3月12日（水）に行った研修では、厚生労働省『身体拘束0への手引き』内に挙げられている身体拘束の11項目についておさらいしました。

このようなことは実際にはなんばの里では行っていませんが、実態調査ではまだまだ行っている施設も決して少なくはありません。医療関係になるとかなり多くの病院で身体拘束を行っている現状があります。

実際に、この11項目についての身体拘束を行ってはいませんが、スピーチロックといわれる行為ははなんばの里でもなかなか無くならないのが現状です。「ちょっと待ってください！」「そこに座っててください！」など、忙しくなればなるほどこういった声が聞こえます。「自分一人で歩き始められると危険」と思い、こういった声になって現れることもありますが、言われた本人の気持ちを考えると、適切な声の抑揚や言葉の変換は必要になります。

毎月、『不適切ケア』について話し合いをしていますが、職員同士、「あの人の声のかけ方はよくないな」「私だったらこんなふうに声をかけるのに」などと思っていても注意したりアドバイスできないでいます。その背景には信頼関係が築けておらず、「注意しなくてはいけないけど、その人との関係が今後どうなるか」を考えてしまい、見て見ぬふり、聞いて聞かぬふりをしてしまうということもあるようです。

先日の経営目標を立てるにあたっての話し合いの中でも同様のことが話題となり、「なんでも言い合える関係作り」という点において取り組むよう示し合わせをしたところです。

身体拘束を受けたご利用者に与える影響は大きく、意欲低下や身体機能の低下、拘束箇所に怪我などを負うという損害を与えてしまいます。それと同時に、職員にも仕事に対するモチベーションの低下や心身の不調をもたらし、やがては離職してしまうということもあります。

ご利用者も職員も心身ともに健康でいるために、また、ご利用者の人権擁護の観点からも出来る限りスピーチロックをなくしていき、介護される側、する側にとってお互いが気持ちよく過ごしていけるよう、これからも取り組みを強化していきたいと感じています。

3月17日

○ 出雲市より

スピーチロックはなかなか無くならないですね。どこの施設でもあるようです。ただ、一人の職員で二人の利用者をみている時など、片方の利用者が立とうとされると、思わず「ちょっと待ってください」など言ってしまいます。言い方や説明の仕方、声の大きさなどを工夫して伝えれば、相手が嫌な気持ちにならないと思います。身体上の危険を回避するうえではやむを得ないこともあるのではないかと思います。

○ 地域住民の代表より

注意するにしても同じ目線で話しかけることが大切だと感じます。今はマスクもしているので、職員さんは表情にも気をつけないといけないですね。

⇒ 施設より

そうですね。日頃から気をつけていることは、状況にもよりますが常に笑顔で話しかけることです。お話いただいたように、マスクをしていることでご利用者には職員の表情が伝わりにくくなります。必要以上の表情を作り話しかけたり、ケアにあたったりしなくてはいけないと思っています。こちらが笑顔で接するだけで表情が和らぐことも多くあります。

○ 地域住民の代表より

私も経験があり、「そこに座ってて」というよりも「私が相手にこうして欲しい」というメッセージで伝えることにより、相手を思いやるような言葉に置き換えることができ、傷つける度合いが違うということを学んだことがあります。相手を動かすのではなく、自分自身を表現して利用者さんに不快な思いをさせず伝えることができたらいいですね。

⇒ 施設より

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

○ 地域住民の代表より

良くないことだと分かっていても、そのあとの人間関係のことを考えるとなかなか注意しづらいですね。あんまり注意するとパワハラと捉える人もいるでしょうし、へそを曲げて離職に繋がっていく場合もあるでしょうし。

⇒ 施設より

どこの事業所でも人間関係や信頼関係は大きな課題になっています。そう簡単に解決できる問題だとは思いませんが、「ご利用者のために」という思いが根底にあれば、良くないことに対して注意し、高め合っていけると思っています。受け止め方も職員それぞれなので、注意する場所や環境に配慮しながら、優しく声をかけあって気軽に注意しあえるようになるといいなと思います。人に言われて初めて気づけることもあるため、受け入れる力も備えておくことも非常に大切だと思います。